

# 被災地 笑顔届くよう

阪神大震災を経験したピアニストの山田紗耶加さん(54)＝豊能町東ときわ台6丁目Ⅱが、東日本大震災をテーマに作詞作曲した7分余りのバラードを各地で演奏している。「離れていても寄り添う気持ちを多くの人と共有したい」と、みのお市民活動センター(箕面市)で11日に開くコンサートでも披露する予定だ。

## 「阪神」体験。ピアニスト山田さん

### 東日本 大震災

祈ります 笑顔が愛が届くように 祈ります ふるさとに 希望を  
 題名は「ふるさとに愛を

希望を」。亡き母と対面する被災者、避難所での再会、福島第一原発の作業員……。被災地の情景を歌詞に盛り込んだ。原点は16年前の阪神大震災の体験だ。神戸市に1人で住む母親とは丸一日電話



震災をテーマにバラードを作ったピアニストの山田紗耶加さん＝豊能町東ときわ台6丁目の山田紗耶加さん

## 思いはせ作曲 各地で演奏

がつながらなかった。不安に襲われ、30分に一度は電話をかけた。大きなけがはなかったが、胸がつぶれるような思いは、大地震が起きるたびによみがえった。

2004年の新潟中越地震の時は、新潟県長岡市の避難所となった小中学校の体育館や小千谷市の仮設住宅を訪れ、ピアノを弾くボランティアをした。長岡市で高齢の女性からリクエストされた童謡「ふるさと」を奏でると、女性は涙を流して言った。「泣きたかった。ありがとう」

「張り詰めていた気持ちが緩んだのだと思う。音楽の持つ不思議な力を実感した」と山田さん。東日本大震災の避難所でも演奏できればと3月末、現地に思いをはせながら曲を作った。被災者に直接、演奏を届ける機会はまだないが、作品はこれまで大阪や広島、京都などで開いた8回のコンサートで、プロの歌手を招いて披露した。

11日のコンサートは午後2時開演。無料。問い合わせは市民活動フォーラムみのお(072・722・2666)へ。(阿部峻介)